『戦争を仕掛けた
中国になぜ謝らなければ
ならないのだ！』

―「日中戦争」は中国が起こした―

出版のご案内

この度、掲記ブックレットを自由社から出版いたしました。

中国に対する「贖罪意識」が日本人の精神をむしばむこと甚だしい物があります。多くの人々がこの「贖罪意識」をあたかも「良心の証」であるかのように思い込んでいるようですが、実はこれは歴史的事実に反したとんでもない思い違いであることをご理解いただきたく、本書をまとめた次第です。

ぜひとも多くの皆様にお読みいただき、認識を改めていただきたいと思います。また至らぬ点についてご批判を賜りたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。

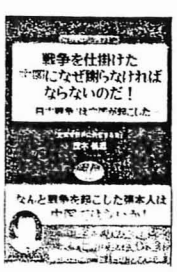
平成２７年１２月吉日　茂木弘道拝

＊小堀桂一郎先生のおことば：

誰でもが手軽に撮って読む気になれるような小冊子であるにも拘らず、事項注が丁寧に付いている上に、年表あり、地図あり、新聞のコピーが載せられてある親切さ、と、全編の説得力は大変なものだ、と思います。ご労作に敬意を評しますと共に、本書の広汎な普及を衷心から祈っております。戦勝国史観への強烈な反撃です。

＜書評等＞

＜産経新聞１１月１３日＞



戦争を仕掛けた中国になぜ謝らなければならないのだ！　茂木弘道著

日本と中国の過去の戦争というと、〝日本が侵略した〟前提でなされる見解が多い。本書は中国側が仕掛けた戦争であることを、証拠資料を挙げて一つ一つ説明している。

証拠資料や記事によって論を展開。ブックレットなので内容はコンパクトにまとめられ、年表や地図で戦争の状況がよく分かる。立命館大の北村稔名誉教授は「随所に従来の歴史認識を覆す新鮮な指摘がある」と評する。

著者はあとがきで「ウソが通れば真実が引っ込むような暗黒世界はまっぴら」と書く。日中戦争の全体像を知るのに役立ちそうだ。

（自由社・500円＋税）

「宮崎正弘の国際ニュース・早読み」（平成２７年１１月２日）

ブックレット形式で簡潔明瞭に中国の嘘宣伝をあばく

日本はまだ左翼の謀略宣伝に洗脳されている連中がいる

茂木弘道『戦争を仕掛けた中国になぜ謝らなければならないのだ！』（自由社）

＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠

シナ事変は日本ではなく中国側がしかけた戦争である。

日本はそれなのに、なぜ中国に謝罪する必要があるのだろうか。完全に中国の謀略戦争に負けているからである。

「日本が悪かった」という洗脳にみごとにひっかかった連中と、その自虐史観に染まった教員やマスコミに濃厚に洗脳されてしまった戦後世代が、中国の宣伝を信じ込んでしまったのは、とりかえしのつかない愚かな「戦後の敗北」なのである。

この劣性を挽回するには、まず真実をしらなければならない。そして国民への広報が必要である。

本書で茂木弘道氏は、できるだけ簡潔に、重要な歴史的事件を、明らかな証拠文章を同時に適用しながら反駁し、証明している。

教科書でも「南京事件」を割愛し、かわりに「通州事件」を取り上げた歴史教科書がついにでてきた（「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書）。

左翼の歴史教科書も「三十万」という数字は怪しいと疑問符を打つか、欄外表記となっているが、日本の主用マスコミやテレビは、まだ中国の言う宣伝を鵜呑みにしている。朝日新聞がみとめたのは吉田証言が嘘だったということだけである。

廬講橋事件は、日本軍が発砲したのではなく、中国共産党の仕業だった。

じつは共産党は当時、窮地に追い込まれていた。西安事件以後、蒋介石は多少、共産党へ宥和条件をしめしたりもしたが、

「その後、蒋介石は次々と厳しい条件を共産党に対してつきつけ、半年後の 1937 年六月ごろには国共決裂の寸前になっていた」

だから廬講橋で「日本軍が発砲」というでっちあげ謀略の工作をなし、蒋介石が日本への対応に追われると、共産党は一息ついて未曾有の危機から脱出できた。

共産党は国民党軍にスパイを潜り込ませ、7 月 7 日、謀略は成功した。その「成功せり」という電報はひそかに延安の毛沢東に打電されたが、日本はちゃんと傍受していた。

「南京大虐殺」がなかったことはいまや１２０％証明された。

上海事件についても、多くの外国メディアさえ、当時から疑問符をつけていた。

かの親中反日のチャンピオン「ニューヨークタイムズ」ですら、1937 年 8 月 31 日付けで次のように書いているのである。

「上海の戦闘に関する限り、証拠が示している事実は一つしかない。日本軍は上海での戦闘を繰り返すことを望んでおらず、事態の悪化を防ぐ為に出来る限りのことをした。だ

が日本軍は中国軍によって文字通り衝突への無理矢理追い込まれてしまった」。

＜アマゾン・レビュー＞より

中国にとって最も都合の悪い一書

投稿者 一言居士 投稿日 2015/11/13

世に日中戦争を論じた本は山ほど有るが、日本侵略説をこれほど判りやすく否定したものにはお目に掛かったことがない。大体は、枝葉末節に拘って本義が見えなくなるか、年表的な史実の羅列か、戦記もののような記述が多いのだが、この本は満州事変から終戦までの日中戦争について、欧米列強やソ連の支援を受けた国民党軍と共産党軍（紅軍）が、いかに卑劣な策を弄して日本を侵略国に仕立てたか、内外の数々の証拠を挙げ、かつ地図や年表、当時の新聞のコピー、豊富で完璧な索引など、客観的な資料を駆使して、日本の侵略説を完膚なきまでに覆している。たった90ページのブックレットだが、これ一冊で戦後70年間の日本犯罪国家説の自虐史観を吹っ飛ばしてくれる痛快かつ貴重な史書である。保守側の人も反日左翼の御仁も、自説を確認するためにも是非とも一読する価値ある一書である。たった500円で自虐史観が払拭されるとしたら、中国にとっては、これほど都合の悪い本はないだろう。

500 円は安い

投稿者太田昌宏 2015 年 11 月 15 日

Amazon で購入

500円で中国の問題が把握できるのは素晴らしいことである。南京大虐殺が捏造されたものであると言う根拠が書かれていて判りやすく書かれているのはうれしい事である。歴史教科書の副読本にふさわしいと言えよう。一刻も早く教育機関はこの本を採用して子供たちに読ませるべきだ。

日本人なら読むべき本。中国の言う南京大虐殺は大嘘。

投稿者 YAMATO19552015 年 11 月 7 日

南京大虐殺について、知識はありましたが、この本は詳しく説明されています。

反日中国、反日日本人も読むべき本です。中国共産党の洗脳された者たちが、真実の歴史を知ってほしいものです。中国では、嘘は 3 回言えば真実になると言われています。ユネスコの事務局長のイリーナ・ボコバ氏はブルガリア出身で、ブルガリア共産党の党員であった。フランス大使などの要職を経て、2009 年からユネスコの事務局長に就任した。重大なことは、彼女が西側諸国がそろって出席を拒否した中国の抗日戦勝記念行事に出席していたことである。中略　この親中派のボコバ氏が次の国連事務総長を狙っている噂がある。そうなれば国連は中国の道具になり下がる。

㈱世界出版でも直接のご注文をお受けします。
価格は、５～９部：￥５００／１部（送料無料）
１０部以上：￥４００／１部（送料無料）
です。（お支払いは郵便振替用紙を同封します。）
お申し込みは、FAXで　０３－３５１９―４３６７　宛におねがいします。
＊１～４部につきましては、ブックサービス（Tel 0120-29-9625）へどうぞ。